

## 臨地実習における実習指導者の指導に関する意識

舟越和代<sup>1)</sup>\*, 斉藤静代<sup>1)</sup>, 吉本知恵<sup>1)</sup>, 橋田由吏<sup>1)</sup>, 吉村敬子<sup>2)</sup>, 古川京美<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 香川県立医療短期大学看護学科

<sup>2)</sup> 香川県立中央病院

### Instructors' awareness of instructions in clinical training

Kazuyo Funakoshi<sup>1)</sup>\*, Shizuyo Saitou<sup>1)</sup>, Chie Yoshimoto<sup>1)</sup>, Yuri Hashida<sup>1)</sup>,  
Keiko Yoshimura<sup>2)</sup>, Kyomi Furukawa<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> *Department of Nursing, Kagawa Prefectural College of Health Sciences*

<sup>2)</sup> *Kagawa Prefectural Central Hospital*

#### Abstract

We carried out an awareness survey of 169 nurses in charge of students' clinical training of our college using the Effective Clinical Teaching Behaviors (ECTB) Scale. Evaluable replies were obtained from 116 nurses. The association between ECTB and the occupational position or instruction experience was analyzed, and the following results were obtained.

1. Nurses in a higher occupational position made more efforts to give constructive advice and instructions in conferences and to improve quality as a group.
2. Nurses with longer nursing experience made more efforts to teach the appeal of the nursing occupation, be a good model for students, create an atmosphere that allows student to frankly ask questions, and deal with students so that they can accurately evaluate their own behavior.
3. Nurses who were in charge of instructors in clinical training, compared with those who were not, provided information to students in the course of clinical training and maintained a good relationship with instructor teachers in charge.
4. Nurses who had received training as clinical training instructors, compared with those who had not, considered that they gave appropriate instructions in and advice for conferences and students' plan for presentation, helped students with accurate evaluation, and definitely showed students the range and items that can be performed by students.

After adequate understanding of the above results, teachers should give instructions useful for nursing practice, taking clinical instructors' experience into consideration.

**Key words** : 臨地実習 (Clinical Training),  
実習指導者 (Instructors), ECTB

\* 連絡先 : 〒 761-0123 香川県木田郡牟礼町原 281-1 香川県立医療短期大学看護学科

\* Correspondence to: Department of Nursing, Kagawa Prefectural college of Health Sciences,  
281-1 Hara, Mure-cho, Kita-gun, kagawa, 761-0123, Japan

## 緒 言

看護基礎教育において、臨地実習はカリキュラムの約1/3を占め、学生にとっては講義で学んだ知識・技術を統合し、専門職業人としての責任や役割を認識できる重要な学習の場である。実習指導体制には、「現場常駐型」、「ラウンド型」、「おまかせ型」がある<sup>1)</sup>。本学では平成11年の開学以来「現場常駐型」の体制で、臨地の実習指導者（本論文では、臨地で実習指導に携わる全ての看護師とする）と協働で実習指導にあたり、今年で5年目をむかえている。主たる実習施設は、A病院である。教員と実習指導者の役割分担については、本学で行う年1回の実習運営協議会や必要に応じて実施する臨地での協議会で確認しながら指導にあたってきた。しかし、指導を開始すると、教員の役割も流動的で、その都度調整が必要であり、効果的な指導方法を模索しながらの4年間であった。

また、実習指導は、部署毎に決められた実習指導担当者だけではなく、看護スタッフ全員があたり、必ずしも看護経験が十分あるという状況ではない。兼平<sup>2)</sup>は、看護師も学生が実習に来ているという緊張感や責任、義務感、そして指導できるだろうかという不安を持っていると述べ、田中ら<sup>3)</sup>は、実習指導者の指導に関する悩みは、まず指導者自身や指導体制に始まり、その後指導に対する自信のなさや不安が緩和し、関心の度合いが高まり深く考え出すようになると、患者や学生に関するさまざまな問題や課題へと悩みは広がっていくと述べている。本学の学生指導にあたる看護師も、看護師としての経験を積む中で学生への指導については様々な葛藤があることと思われる。学生の臨地での学びを豊かにする為には、教員が実習指導者の状況を理解した上で、お互いの役割を理解しながら指導にあたる必要がある。しかし、実習指導者の指導法に対する考えについては明らかにされていない。

そこで、実習指導者である看護師が自分が行っている指導についてどのように思っているかを明らかにすることで、今後の実習指導体制創りに活用したいと考えた。本研究の目的は、実習指導者が本学の学生の実習指導についてどう思っているかを、自己評価スケールを用いて明らかにした上で、より連携を深めながら、指導できる方法について検討することである。

## 本学における臨地実習指導の概要と指導体制

### 1) 本学の臨地実習の目的

学内で習得した看護についての理論と技術ならびに基本的諸科学からの知識を用いて、ライフサイクル各期の人々の生活援助や治療援助に関わる看護実践を体験する。さらに、個人及び集団のもつ健康段階と状況に応じて、選択・再構成し応用するという実践の過程を学習する。この学習の過程で、学生は人々との関わりを通して、自己を洞察し、看護者として必要な応用力、判断力、総合力を身につけ、総合的な問題解決能力を習得する。

### 2) A病院の概要と本学学生への指導体制

公立の総合病院で、ベッド数641床である。短期大学（本学）、高等学校専攻科、医師会看護専門学校の3校の臨地実習を受けている。

本学の臨地実習は、基礎看護学実習3単位、成人看護学実習8単位、老年看護学実習2単位、母性看護学実習2単位、小児看護学実習2単位である。指導体制は、実習部署により若干異なるが、実習部署ごとに1～4名の実習指導担当者が決められているが、全ての看護師が実習指導に携わり、主に患者への直接的な看護実践での指導を担当している。

### 3) 本学の指導体制

学生6名を1グループとし、各領域担当の教員が担当している。教員の指導体制は、前述したように現場常駐型であり、実習施設の実習指導者と連携を持ちながら直接指導を行い、実習教育の計画・実施・評価すべてにおいて責任を持っている。実習指導者・教員の役割については、両者で話し合いのもと文章化している。

## 研究方法

### 1. 期間

平成15年9月。

### 2. 対象者

A病院の看護師のうち、本学学生の指導経験があると答えた者169人。

### 3. 方法

#### 1) 調査内容

(1) 対象の属性及び背景（性別、職位、勤務場所、

看護職の経験年数, 実習指導の経験年数, 現在実習指導者に任命されているかどうか, 実習指導者講習会の受講経験)

(2) Effective Clinical Teaching Behaviors (以下 ECTB) 43 項目. これは, Zimmerman らにより考案された実習指導の内容と質について評価するための質問紙を参考に, 石川ら<sup>4)</sup>が, 学生が指導者を評価する為の質問項目を作成し, さらに中西ら<sup>5)</sup>が指導者の自己評価用に改変している. 今回は, 実習指導者が対象であり, 中西らが改変したものを使用した. 5 点: いつもそうである～1 点: 全くそうでない, の 5 段階で回答を求めた (具体的な質問内容は表 2 を参照).

## 2) 調査方法

自記式質問紙による調査を留置法で実施した. 回答にあたっては, 実習指導委員である研究者から, 実際の状況を回答するよう依頼した.

## 3) 倫理的配慮

研究目的と, 無記名であること, 自由意志であることを明記した調査用紙と封筒を看護師長を通じて配布し, 病棟毎に回収した. 分析にあたっては対象者が特定されないようにした. ECTB 評価スケールの使用については作成者の承諾を得た.

## 4) 分析方法

ECTB の 43 項目について, 記述統計量を求め, 対象者の背景毎に, 一元配置分散分析と多重比較, もしくは, Mann-Whitney の U 検定で比較した. 有意確率は,  $p < 0.05$  を採用した. 統計解析には, 統計パッケージ SPSS10.0 for Windows を用いた.

# 結 果

対象者 169 人のうち 118 人から有効回答を得た (有効回答率 69.8%).

## 1. 対象者の属性及び背景

性別は, 女性が 117 人 (99.2%), 病棟勤務者が 105 人 (89.0%) であった. 看護職の経験年数は, 20 年以上が 44 人 (37.3%) と一番多く, 次いで 10 年以上 20 年未満が 39 人 (33.1%) であった. 現在実習指導担当者である者が 36 人 (30.5%) であった. 実習指導の経験年数は, 1 年以上 5 年未満が 53 人 (44.9%) で一番多いが, 1 年未満の者も 44 人 (37.3%) いた. 実習指導者講習会等, 指導者の研修を受けた経験がある者は 23 人 (19.5%) であった. (表 1)

表 1 対象者の属性及び背景

		n=118	
		人	%
性別	男	1	0.8
	女	117	99.2
勤務場所	病棟	105	89
	外来・その他	13	11
職位	看護師長	7	5.9
	主任看護師	20	16.9
	スタッフ看護師	88	74.6
	無回答	3	2.5
看護職の経験年数	1年未満	2	1.7
	1年以上3年未満	6	5.1
	3年以上5年未満	6	5.1
	5年以上10年未満	21	17.8
	10年以上20年未満	39	33.1
	20年以上	44	37.3
実習指導の経験年数	1年未満	44	37.3
	1年以上5年未満	53	44.9
	5年以上	21	17.8
実習指導担当者の経験	現在あり	36	30.5
	過去に経験	43	36.4
	なし	36	30.5
	無回答	3	2.5
実習指導者講習会の受講経験	あり	23	19.5
	なし	90	76.3
	無回答	5	4.2

## 2. ECTB 全体の結果

表 2 に, 全体の集計結果を, 平均値が高い順に示した. 平均値が 4 点以上の項目は, 「No. 4 学生に対し裏表なく素直ですか」, 「No.10 学生がうまくやれた時にはそのことを伝えていきますか」, 「No.32 患者様と良い人間関係をとっていますか」の 3 項目で, 8 割以上の看護師が「いつもそうである」もしくは「だいたいそうである」と答えていた. 平均値が 3 点以下であった項目は, 「No.25 記録物についてのアドバイスは, タイミングをつかんで行えていますか」, 「No.19 より良い看護援助をするために, 学生に文献を活用するように言っていますか」, 「No.30 実習グループの中で, 学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけていきますか」の 3 項目で, 「いつもそうである」もしくは「だいたいそうである」と答えていた看護師は 2 割であった.

## 3. 職位と ECTB の関連

職位別 (看護師長・主任・スタッフ) で有意差が認められた項目は「No. 3 学生のグループカンファレンスや計画の発表に, 適切に助言していますか」, 「No. 8 カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか」, 「No.30 実習グループの中で, 学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけていきますか」の 3 項目であった. 職位が高

表2 看護師の実習指導の自己評価

n=118

No. 質問項目	いつもそうである		だいたいそうである		半分くらいそうである		あまりそうでない		全くそうでない		平均値	標準偏差
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
4 学生に対し裏表なく素直ですか？	42	35.6	55	46.6	18	15.3	1	0.8	2	1.7	4.14	0.83
10 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えていますか？	29	24.6	74	62.7	10	8.5	3	2.5	2	1.7	4.06	0.77
32 患者様と良い人間関係をとっていますか？	25	21.2	73	61.9	18	15.3	1	0.8	1	0.8	4.02	0.69
5 学生に対し客観的な判断をしていますか？	26	22.0	66	55.9	24	20.3	1	0.8	1	0.8	3.97	0.73
9 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっていますか？	24	20.3	68	57.6	22	18.6	2	1.7	2	1.7	3.93	0.78
11 学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしていますか？	25	21.2	62	52.5	26	22.0	3	2.5	2	1.7	3.89	0.82
1 学生に実習をすすめる上での情報を提供していますか？	23	19.5	64	54.2	26	22.0	4	3.4	1	0.8	3.88	0.79
34 学生のいうことを受け止めていますか？	15	12.7	75	63.6	26	22.0	1	0.8	1	0.8	3.86	0.67
2 ケアの実施時には、(学生に)基本的な原則を確認していますか？	24	20.3	56	47.5	32	27.1	4	3.4	2	1.7	3.81	0.86
42 学生の受持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示していますか？	20	16.9	62	52.5	29	24.6	6	5.1	1	0.8	3.80	0.81
12 専門的な知識を学生に伝えるようにしていますか？	16	13.6	66	55.9	31	26.3	3	2.5	2	1.7	3.77	0.78
22 学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求ですか？	19	16.1	52	44.1	39	33.1	7	5.9	1	0.8	3.69	0.84
6 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけていますか？	14	11.9	57	48.3	38	32.2	7	5.9	2	1.7	3.63	0.84
17 学生が気軽に質問できるような雰囲気をつくっていますか？	14	11.9	53	44.9	44	37.3	4	3.4	3	2.5	3.60	0.84
36 担当指導教員と良い人間関係を保っていますか？	14	11.9	52	44.1	43	36.4	5	4.2	4	3.4	3.57	0.88
31 必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示していますか？	10	8.5	50	42.4	51	43.2	4	3.4	3	2.5	3.51	0.80
26 学生一人一人と、良い人間関係をとるようにしていますか？	12	10.2	48	40.7	43	36.4	12	10.2	3	2.5	3.46	0.90
27 学生が新しい体験ができるような機会を作っていますか？	12	10.2	47	39.8	45	38.1	10	8.5	4	3.4	3.45	0.91
28 物事に対して柔軟に対応していますか？	11	9.3	44	37.3	51	43.2	9	7.6	3	2.5	3.43	0.86
7 学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけていますか？	5	4.2	50	42.4	52	44.1	9	7.6	2	1.7	3.40	0.76
40 学生に対し忍耐強い態度で接していますか？	9	7.6	49	41.5	44	37.3	12	10.2	4	3.4	3.40	0.90
33 学生が新しい状況や、今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけをしていますか？	6	5.1	49	41.5	50	42.4	9	7.6	4	3.4	3.37	0.84
15 学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事していますか？	8	6.8	49	41.5	42	35.6	15	12.7	4	3.4	3.36	0.91
43 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助していますか？	8	6.8	45	38.1	52	44.1	8	6.8	5	4.2	3.36	0.87
14 学生が、学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援していますか？	6	5.1	45	38.1	53	44.9	8	6.8	6	5.1	3.31	0.87
3 学生のグループカンファレンスや計画の発表に、適切に助言していますか？	12	10.2	42	35.6	42	35.6	13	11.0	9	7.6	3.30	1.05
13 学生同士で自由な討論ができるようにしていますか？	8	6.8	46	39.0	45	38.1	11	9.3	8	6.8	3.30	0.97
39 指導の方法は統一していますか？	10	8.5	35	29.7	56	47.5	14	11.9	3	2.5	3.30	0.88
8 カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか？	8	6.8	46	39.0	42	35.6	13	11.0	9	7.6	3.26	1.01
37 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助していますか？	5	4.2	40	33.9	58	49.2	11	9.3	4	3.4	3.26	0.82
18 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示していますか？	6	5.1	40	33.9	54	45.8	14	11.9	4	3.4	3.25	0.86
16 学生に対して看護者として良いモデルになっていますか？	5	4.2	33	28.0	66	55.9	10	8.5	4	3.4	3.21	0.79
41 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけていますか？	7	5.9	29	24.6	61	51.7	17	14.4	4	3.4	3.15	0.86
23 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしていますか？	2	1.7	38	32.2	57	48.3	17	14.4	4	3.4	3.14	0.81
29 実習の展開過程において、適切なアドバイスをしていますか？	6	5.1	32	27.1	59	50.0	15	12.7	6	5.1	3.14	0.89
21 理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるように働きかけていますか？	8	6.8	30	25.4	50	42.4	26	22.0	4	3.4	3.10	0.94
20 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っていますか？	6	5.1	33	28.0	51	43.2	21	17.8	7	5.9	3.08	0.95
38 学生により刺激となるような話題を投げかけていますか？	5	4.2	30	25.4	54	45.8	24	20.3	5	4.2	3.05	0.89
24 記録物の内容について適切なアドバイスをしていますか？	3	2.5	35	29.7	53	44.9	18	15.3	9	7.6	3.04	0.93
35 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけていますか？	5	4.2	22	18.6	66	55.9	20	16.9	5	4.2	3.02	0.84
30 実習グループの中で、学生が互いに刺激あって向上できるように働きかけていますか？	2	1.7	21	17.8	59	50.0	32	27.1	4	3.4	2.87	0.80
19 より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか？	3	2.5	25	21.2	45	38.1	35	29.7	10	8.5	2.80	0.96
25 記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか？	3	2.5	9	7.6	63	53.4	32	27.1	11	9.3	2.67	0.85

表3 看護師の実習指導についての自己評価(職位との関連)

n=115

No. 質問項目	職位	看護師長 (n=7)	主任看護師 (n=20)	スタッフ看護師 (n=88)	F値
		Mean (SD)	Mean (SD)	Mean (SD)	
3 学生のグループカンファレンスや計画の発表に、適切に助言していますか？		4.14 (0.69)	3.5 (0.83)	3.18 (1.10)	3.241
8 カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか？		4.29 (0.49)	3.30 (0.92)	3.19 (1.01)	4.044
30 実習グループの中で、学生が互いに刺激あって向上できるように働きかけていますか？		3.71 (0.76)	3.00 (0.79)	2.78 (0.76)	5.040

一元配置分散分析 多重比較 \*p&lt;0.05

表4 看護師の実習指導についての自己評価(看護職経験年数との関連)

n=118

No. 質問項目	看護職経験年数	10年未満 (n=35)	10年以上20年未満 (n=39)	20年以上 (n=44)	F値
		Mean (SD)	Mean (SD)	Mean (SD)	
15 学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事していますか？		2.89 (0.87)	3.41 (0.88)	3.68 (0.83)	8.522
16 学生に対して看護者として良いモデルになっていますか？		2.83 (0.71)	3.31 (0.77)	3.43 (0.79)	6.639
17 学生が気軽に質問できるような雰囲気をつくっていますか？		3.31 (0.83)	3.59 (0.94)	3.84 (0.68)	4.050
35 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけていますか？		2.69 (0.83)	3.00 (0.76)	3.30 (0.82)	5.591

一元配置分散分析 多重比較 \*p&lt;0.05

表5 看護師の実習指導についての自己評価(実習指導経験年数との関連)

n=118

No. 質問項目	実習指導経験年数	1年未満 (n=44)	1年以上5年未満 (n=53)	5年以上 (n=21)	F値
		Mean (SD)	Mean (SD)	Mean (SD)	
3 学生のグループカンファレンスや計画の発表に、適切に助言していますか？		2.82 (1.13)	3.53 (0.91)	3.71 (0.85)	8.509
8 カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか？		2.91 (1.14)	3.40 (0.86)	3.67 (0.86)	5.209
10 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えていますか？		3.80 (0.92)	4.25 (0.65)	4.14 (0.48)	4.563
19 より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか？		2.52 (0.98)	3.04 (0.96)	2.76 (0.77)	3.658
38 学生により刺激となるような話題を投げかけていますか？		2.75 (0.94)	3.17 (0.83)	3.38 (0.80)	4.658
41 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけていますか？		2.93 (0.79)	3.36 (0.92)	3.10 (0.77)	3.098
42 学生の受持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示していますか？		3.52 (0.82)	4.04 (0.76)	3.76 (0.77)	5.210

一元配置分散分析 多重比較 \*p&lt;0.05

い方が、得点が高かった。(表3)

#### 4. 看護職経験年数と ECTB の関連

看護職の経験年数(10年未満・10年以上20年未満・20年以上)で有意差が認められた項目は、「No.15 学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事をしていますか」、「No.16 学生に対して看護者として良いモデルになっていますか」、「No.17 学生が気軽に質問できるような雰囲気をつくっていますか」、「No.35 学生自身が自己評価をできやすくする

ように働きかけていますか」の4項目であった。経験年数が高いほど、得点が高かった。(表4)

#### 5. 実習指導の経験年数と ECTB の関連

実習指導経験が1年未満の者、1年以上5年未満の者、5年以上の者に分けて、ECTBとの関連をみたところ、計7項目に有意差が認められた。経験が1年未満の者は、7項目全てにおいて得点が低かった。経験年数が多いほど得点が高かったのは、「No.3 学生のグループカンファレンスや計画の発表に、適

No. 質問項目	実習指導者経験			F値
	現在有り (n=36)	過去に有り (n=43)	なし (n=36)	
1 学生に実習をすすめる上での情報を提供していますか?	4.25 (0.69)	3.81 (0.73)	3.58 (0.84)	7.247
3 学生のグループカンファレンスや計画の発表に、適切に助言していますか?	3.83 (0.88)	3.42 (0.91)	2.61 (1.05)	15.636
8 カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか?	3.64 (0.87)	3.35 (0.87)	2.75 (1.11)	8.256
13 学生同士で自由な討論ができるようにしていますか?	3.61 (0.99)	3.28 (0.99)	2.97 (1.23)	4.029
18 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示していますか?	3.75 (0.74)	3.23 (0.87)	3.00 (0.93)	3.129
19 より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか?	3.03 (0.91)	2.93 (0.86)	2.39 (0.96)	5.261
24 記録物の内容について適切なアドバイスをしていますか?	3.11 (0.98)	3.28 (0.63)	2.75 (1.08)	3.458
27 学生が新しい体験ができるような機会を作っていますか?	3.86 (0.72)	3.44 (0.88)	3.11 (0.92)	7.083
30 実習グループの中で、学生が互いに刺激あつて向上できるように働きかけていますか?	3.28 (0.81)	2.72 (0.73)	2.61 (0.73)	8.122
32 患者様と良い人間関係をとっていますか?	4.36 (0.54)	3.79 (0.64)	3.92 (0.77)	7.928
35 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけていますか?	3.22 (0.90)	3.14 (0.71)	2.72 (0.81)	4.052
36 担当指導教員と良い人間関係を保っていますか?	4.11 (0.71)	3.40 (0.82)	3.17 (0.85)	13.955
37 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助していますか?	3.50 (0.74)	3.30 (0.77)	3.03 (0.84)	3.288
38 学生により刺激となるような話題を投げかけていますか?	3.47 (0.91)	3.02 (0.71)	2.72 (0.91)	7.266
40 学生に対し忍耐強い態度で接していますか?	3.69 (0.79)	3.44 (0.83)	3.14 (0.93)	3.874
41 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけていますか?	3.39 (0.84)	3.19 (0.88)	2.83 (0.81)	3.991
42 学生の受持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示していますか?	4.00 (0.76)	3.84 (0.72)	3.47 (0.88)	4.303
43 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助していますか?	3.78 (0.76)	3.28 (0.80)	3.11 (0.89)	6.573

一元配置分散分析 多重比較 \*p<0.05

切に助言していますか」, 「No.8 カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか」, 「No.38 学生により刺激となるような話題を投げかけていますか」の3項目であった。1年以上5年未満の者が一番得点が高かったのは, 「No.10 学生がうまくやれた時には, そのことを伝えていますか」, 「No.19 より良い看護援助をするために, 学生に文献を活用するように言っていますか」, 「No.41 学生がうまくいかなかった時, そのことを学生自身が認めることができるように働きかけていますか」, 「No.42 学生の受持ち患者様と, その患者様へのケアに関心を示していますか」の4項目であった。(表5)

#### 6. 実習指導担当者の経験とECTBの関連

現在実習指導担当者である者, 過去に経験したことがある者, 経験がない者, に分けて, ECTBとの関連を分析した結果, 18項目に有意差が認められた。18項目中17項目は, 現在実習指導担当者である者の得点が一番高かった。特に「No.1 学生に実習をすすめる上での情報を提供していますか」が平均値4.25, 「No.36 担当指導教員と良い人間関係を保っていますか」が平均値4.11と得点が高かった。「No.24 記録物の内容について適切なアドバイスをしていますか」のみ, 過去に経験有りの者が一番得点が高かった。実習指導担当者の経験がない者は, 18項目全てにおいて一番得点が低かった。(表6)

#### 7. 実習指導者講習会受講経験の有無とECTBの関連

実習指導者講習会の受講経験の有無とECTBの各質問項目との関連は, 「No.3 学生のグループカンファレンスや計画の発表に, 適切に助言していますか」, 「No.8 カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか」, 「No.10 学生がうまくやれた時には, そのことを伝えていますか」, 「No.18

学生が実施してよい範囲・事柄を, 実習の過程に応じて明確に示していますか」の計4項目に有意差が認められた。経験がある者の方が得点が高かった。(表7)

## 考 察

今回の調査の結果, 8割以上の実習指導者が, 学生に対し裏表なく素直に接しており, 学生がうまくやれた時にはそのことを伝えていると答えた。浦ら<sup>6)</sup>によると, 指導者の教授活動の中で, 「学生理解・支援的態度」が学生の学びと最も関連があり, 指導者の指導態度そのものが, 看護者に重要な誠実な態度や, 看護に対する考えなどの学びにつながっていると述べている。指導にあたるほとんどの看護師が, 学生を理解し, 支持的な態度であると評価しているということは, 効果的な学習が期待できる環境であるといえる。

しかし, 記録のアドバイスや文献を活用する指導, チームとしての向上を目指す指導についての評価は低く, これは, 教員が「現場常駐型」の指導体制をとっていることも関連があると考えられる。これらについては, 教員の役割として考えていくことが妥当であろう。ただし, 職位が上がるにつれ, カンファレンスでの建設的な助言や指導, 学生同士がお互いを高めあうようなグループの質の向上を目指した指導を心がけていた。これは, 看護師長には, チームを総合的に観て, 統率していく力が求められるという職務との関連もあると推察できるが, 看護の熟練者としてのみでなく, 管理者としての役割や考え方を学生に示すには一番良い立場の指導者といえる。今後も学生個々の指導のみでなく, グループ員全体に刺激を与えられる指導が期待できる。

次に, 看護師としての経験年数との関連をみると,

表7 看護師の実習指導の自己評価(実習指導者講習会受講経験との関連)			
		n=113	
		実習指導者講習会受講経験	
		有	無
		(n=23)	(n=90)
No.	質問項目	Mean (SD)	Mean (SD)
3	学生のグループカンファレンスや計画の発表に, 適切に助言していますか?	3.70 (0.76)	3.19 (1.11)
8	カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか?	3.78 (0.85)	3.13 (1.00)
10	学生がうまくやれた時には, そのことを伝えていますか?	4.30 (0.76)	3.98 (0.76)
18	学生が実施してよい範囲・事柄を, 実習の過程に応じて明確に示していますか?	3.61 (0.78)	3.16 (0.85)
		Mann-WhitneyのU検定 *p<0.05	

看護師としての経験年数が増えるほど、学生に看護職の魅力について伝え、良いモデルになることを心がけていた。また、学生が気軽に質問できるような雰囲気作りや、自己評価に繋がるような学生の行動の意味付けも考えて指導しようとしていた。実習指導の経験年数との関連では、実習指導の経験を積み重ね、カンファレンスでの助言・指導が的確になり、学生に刺激となるような話題の提供を心がけていることもわかった。森ら<sup>7)</sup>は、教育経験年数が長くなるにしたがい、学生を的確に把握し、理論的に学習をすすめるような指導が多くなることが推察できると述べている。これは、学生が教員の指導を評価しての結果であるが、実習指導者にも同様のことがいえるのではないかと、自分が行っている看護の意味が学生に説明できるようになるには、それ相応の年月と研修が必要とされ、特に経験が1年未満の実習指導者については、先輩看護師からの助言や、研修等の教育的配慮が必要とされる。

一方、受け持ち患者へのケアに関心を示し、学生の行動に直接、具体的に評価を与えたり、文献活用を学生に指導することにおいては、1年以上5年未満の経験者が一番評価が高く、5年以上の経験者は若干評価が低くなっていた。これらは、看護の実践場面で直接指導に関わる時に必要な視点である。1年以上5年未満という経験は、学生を看護実践活動の中で教育するという意欲が充実し、教育実践につながっていることが窺えた。中西<sup>8)</sup>は、臨床での学習において、病院指導者の基本的な役割は、学生に実践家として役割モデルを示すことであると述べている。学生が実習で直面する問題は、受け持ち患者のケアや実践に関するものであり、臨場感あふれる看護実践や経験に根ざした助言が学生に与える影響は大きい。

また、現在実習指導者である者は、記録物のアドバイスに関しては実習指導者経験が無い者との差が認められなかったものの、学生が実習をすすめる上での情報提供の充実や、担当教員や患者と良い人間関係を保っている等、学生が実習しやすい環境作りをより心がけていることがわかった。中西ら<sup>5)</sup>は、ECTBを用いた調査から、指導者の自己評価は厳しかったが、患者や看護教員と良い人間関係を採ろうとしていたと述べている。今回の対象者も、関係作りを重点に、よりよい指導をしていこうとする指導者としての意識は高い。また、実習指導者講習会との関連では、受講する事で、学生のカンファレンスに関心を持つ事や学生の「できたこと」への承認が

できている。実習指導に当たる看護師は、実習指導者講習会を受講する事で臨地実習に対する「自信度」や「関心度」をもち、逆に「負担度」は未受講者の方がより大きく感じていた<sup>9)</sup>と言われており、この自信度や関心度の高さにより、カンファレンスにも関心を持って臨めていることが予想できる。

今回の調査で、臨地の実習指導者にとって、看護職としての経験や、指導者としての立場の経験、また、指導者講習会の受講等は、学生の実習体験により影響を与えることが示唆された。つまり、実習指導担当者の選定には、職位、看護実践の経験年数、研修会の参加経験等を考慮する必要がある。教員は、実習指導者の経験を考慮に入れながら、協働で看護の実践に繋がる指導をしていく必要がある。

## まとめ

本学の実習指導を担当している看護師116人対象にECTBスケールを用いた意識調査を実施し、以下のことがわかった。

1. 8割以上の実習指導者が、学生に対し裏表なく素直に接し、学生がうまくやれた時にはそのことを伝え、また、患者と良い人間関係をとっていると答えた。一方、記録や文献活用の指導、グループの質の向上を目指した指導をしていると答えた実習指導者は2割のみであった。
2. 職位が高い程、カンファレンスでの建設的な助言や指導、また、グループの質の向上をめざした指導を心がけていた。
3. 看護師の経験年数が長い程、学生に看護職の魅力について伝えること、良いモデルになることを心がけていた。また、学生が質問しやすい雰囲気作りや、学生自身が自分の行動を自己評価できるように関わろうとしていた。
4. 実習指導の経験年数が1年から5年の者は、学生を教育するという意欲が充実し、実践につながっていることが窺えた。
5. 現在実習指導担当者の者は、学生に実習をすすめる上での情報提供や、担当指導教員と良い人間関係を保っていると評価していた。また、実習指導者の研修を受けた者は、カンファレンスや計画の発表への指導・助言が適切であり、学生の自己評価の手助けができている、学生が実施してよい範囲・事柄を明確に示していると評価していた。

教員は、以上のことを理解した上で、実習指導者の経験を考慮に入れながら、協働で看護の実践に繋



がる指導をしていく必要がある。

## 文 献

- 1) 藤岡完治, 安酸史子, 村島さい子, 中津川順子(2001) “学生とともに創る臨床実習指導ワークブック”, 医学書院, 東京, p41-42.
- 2) 兼平佳子 (1995) 異文化に触れて考えたこと 臨床実習指導者の現場から. 看護教育 36(3): 227-231.
- 3) 田中道子, 竹谷英子, 鳥山みどり (1991) 臨床指導者の悩みのもつ意義. 第 22 回看護教育: 245-248.
- 4) 石川ふみよ, 森千鶴, 千葉恭子, 奥宮暁子, 岡部聡子, 大西和子, 大淵律子, 小林伸子 (1991) 臨床看護実習における教員評価表の妥当性と指導体制の一考察—学生の教員および看護婦に対する評価—. 東京都立医療技術短期大学紀要第4号: 77-90.
- 5) 中西啓子, 影本妙子, 林千加子, 角名香代, 合田友美 (2002) Effective Clinical Teaching Behaviors(ECTB) 評価スケールを用いた看護実習指導の分析—第1報—. 川崎医療短期大学紀要 22: 19-24.
- 6) 浦綾子, 岩永和代, 中嶋恵美子, 吉永一彦 (2002) 臨地実習における教授活動と学生の学びの関係—ECTB スケールを用いた学生の教員・指導者への評価から—. 第 33 回看護教育: 198-200.
- 7) 森千鶴, 石川ふみよ, 千葉恭子, 市瀬陽子, 大西和子, 奥宮暁子 (1991) 学生の臨床実習指導に対する教員評価の分析—ECTB をもとにした評価表を用いて—. 第 22 回看護教育: 242-244.
- 8) 中西睦子 (1998) “臨床教育論”, 11, ゆるみ出版, 東京, p286-294.
- 9) 岩間みどり, 滝沢深雪, 山本和子, 山本時子, 瀬口ミツ子, 水田洋子, 山田保子 (1999) 臨地実習指導者の指導に対する認識 当院の臨地実習指導者の意識調査から—. 第 30 回看護教育: 30-31.

---

受付日 2003 年 11 月 4 日